

### 職員のみなさまへ一言メッセージ（第59回）

漸く、春めいて参りました。どうやら、一人の入所者もインフルエンザは今年も罹患せず、開設以来の記録を伸ばせそうです。運が良かったのでしょうか、本当に、有り難いことです。みなさんのご協力に、心から感謝します。

さて、雑誌「致知」3月号の特集は、「運とツキの法則～運とツキは、こうして掴め～」です。

「この世には、運とツキが存在する。それを否定する人は殆どいない。しかし、自らの手で運とツキを掴み取り、人生を好転させていける人がどれほどいるのだろうか、潰れかかった会社をクレジットカード業界1位に育て上げたクレディセゾン社長・林野宏氏とビジネス界、スポーツ界ともに一流の成功者の能力開発に携わってきたサンリ会長・西田文郎氏に、人生の運とツキを掴むための大原則について語り合っていた。」と巻頭に述べられて、対談が始まります。以下、大事な点をピックアップします。

『長年、能力開発の仕事をしてきましたが、すべからず成功者、一流といわれる方は運やツキを持っています。』

「ツキ」というのは、チャンスを掴む能力、思いがけないラッキーが訪れて、それを生かしたときに「ツイていた」という。

若くて実力の無い頃は、世の中でツイている人、運のある人の目に留まり、気に入られ引き上げられることが、運とツキの法則の大原則です。

世の中には大きく分けて、どうせ自分なんてこんなものだと思っている「否定的錯覚型」と、たとえ何回躓いても、次はできるという錯覚がずーと続く「肯定的錯覚型」の2種類の間人間しかいません。後者でないと成功しないので、まず脳を「自分にはツキがある」というソフトに変えないといけない。ツライときには「目標」を持ち、いずれかはという気持ちを持ち続けることである。スポーツ選手などにも、監督から干された時「将来トップ選手になって見返してやればいい」と言っている。

「油断大敵」という言葉があるが、一流選手で油断するような人はいません。実際は「不満大敵」なんです。素質のある選手でも、監督や周囲の環境に不満を持ち始めた瞬間から、駄目になっていきます。

エジソンの言葉に「殆どの人はこれ以上アイデアを考えることは不可能というところまで行き着き、そこでヤル気をなくしてしまう。いよいよこれからののに・・・」これはどういう意味なのか。一流の人でも他人と比較をして諦めてしまう。たとえば、プロスポーツの世界で活躍する人は皆一流です。だけど、人より結果がよければ、まあ、良かろうと苦しいことがあると諦めてしまう。自己の描いたイメージをあきらめずに、どこまでもやる人、それが超一流なのです。

「能力とは目標に向かって努力する情熱の持続心」と定義できる。それは、 $A = c t$ の2乗で表される。Aは ability 能力、Cは concentration

集中、Tは time 時間。能力とはどれだけの時間、目標を達成するために集中できるかということである。しかも、時間の2乗である。

組織の大半の人は、言われたことをやる「環境順応型」と、言われたこともやらない「環境逃避型」です。順応型は、苦しくなると「他責」にし、逃避方は、会社が悪い、上司が悪いといつも「他責」です。

言われたこと以上のことをする人、あるいは言われなかったことをやりたがる「環境変革型」は脳が「自責」である。運とかツキというのは自責の人にしか訪れないものなのです。

また、運ある人は運を大事にする。運の無い人は運を粗末にする。勉強の好きな人は益々勉強する。トップセールスの人は、遊ばずに頑張る。

成績の悪い人は、遊ばずに頑張れば良いのに、頑張らない。だから、運とツキは、何の努力しない人には、絶対訪れないものなのです。

これからの時代に求められる人材は(若干、藤本が加工しています)、  
①情熱を傾け続ける。②運やツキを信じている。③苦手なものがハッキリしている。④広義の趣味、遊びが好き(何事にも興味を持つ)。⑤特技や実績がある。⑥負けてたまるかという気持ちを持ち続ける。人である。

ツキの女神に愛されるためには、積極的に自己犠牲ができる人です。

「目標を達成するためには頑張る」そこまで望みの質が高くなければ激しい競争には勝てない。成功には必ず自己犠牲が伴う。それを進んで行っていると脳は自然とツイている状態になる。仕方が無いからやるといふ消極的自己犠牲は、周囲にはわかりますから、ツキの女神は微笑まない。母親の愛は積極的な自己犠牲の究極です。

積極的な自己犠牲とは、自分との約束を守ることなんです。そして、成功する人は間違いなく自分との約束を守り通します。よし、毎日読書をしようと思ったとする。自分の時間が減るから自己犠牲です。しかし、成功する人は、どんなことがあってもやり抜くのです。そうして、最終的に行き着くのは天との約束です。

ビジネスの世界において成功するには、2つの道しかないと思います。1つは自分が夢中になれるものを仕事にするか、もう1つは、与えられた仕事に夢中になるか。ものすごい数の社員研修をやって来まし、同時にスポーツのプロの選手も指導して来ましたが、スポーツ選手ほどの熱心さでビジネスをやっている人は、一般社員にはそんなにいない。

人間の脳は、実は苦と楽は一對なのです。苦しいことを乗り越えると嬉しいと感じるようにできている。さらに、レベルの高い困難なことにチャレンジしたくなる。だからまずは、自分の仕事に打ち込んでみることです。若いうちに苦勞して仕事に打ち込んだ人のほうが、長い人生ではツイています。全ての成功の道は、いま、ここにある仕事に精一杯打ち込むことがスタートになるのです。』

私は感激して読みました。みなさんはどうでしょうか。

平成23年2月25日 真和館施設長 藤本和彦